

■重層的な地域支援体制の構築をめざすための児童発達支援センターの設置および障がい児の地域社会への参加・包容(インクルージョン)を推進する体制の構築

市町村名	目標と実施状況						状況分析 (課題・評価できることなど)	令和7年度における取組等 (課題を解決するための取組等)
	児童発達支援センターの設置(箇所)			障がい児の地域社会への参加・包容 (インクルージョン)を推進する体制の構築				
	目標 (令和8年度末)	圏域	実施状況 (令和6年度末)	目標 (令和8年度末)	圏域	実施状況 (令和6年度末)		
忠岡町	1		0	有		無	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援センター設置について、大阪府発達支援拠点を担う法人(1箇所)の運営費の一部を助成しており、当該法人の運営する療育施設において、専門的な療育支援や家族支援の利用を一定確保できている。しかしながら、本町在住の児童の受け入れ人数を固定化するような体制には至っておらず、他市町在住の児童との受け入れ調整を必要としている。また、地域連携機能においては未整備であることも踏まえ、センターの共同利用体制の構築までは至っていない。 障がい児の地域社会への参加・包容(インクルージョン)を推進する体制の構築について、専門員が町立認定こども園を訪問し、障がい特性や発達段階、生活環境その他の状況に応じ、専門的な機能訓練や支援する事業を令和7年度より開始することを目標に、立案・財源確保・各種調整に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援センター設置については、対象児童およびその家族が専門的療育や支援を受ける機会の確保のため町外にある児童発達支援センターへの助成を継続した。また、児童発達支援センターが担うべき役割(中核機能)について町内の障がい児通所支援事業所への情報共有、ヒヤリングを実施。町内事業所の地域障害児支援体制中核拠点当登録及び中核機能事業所加算の認定に向け検討を進め、児童発達支援センター機能の面的整備に向けて調整を行っている。 障がい児の地域社会への参加・包容(インクルージョン)を推進する体制の構築について、左記で予定していた事業を開始し、継続した支援に向けて取り組みを行っている。

※1「入所者の削減数」の【削減数】の値は、令和4年度末時点の入所者数と令和6年度末の入所者数を比較して算出。

■主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の確保

市町村名	目標と実施状況						状況分析 (課題・評価できることなど)	令和7年度における取組等 (課題を解決するための取組等)
	主に重症心身障がい児を支援する 児童発達支援事業所の確保(箇所)			主に重症心身障がい児を支援する 放課後等デイサービス事業所の確保(箇所)				
	目標 (令和8年度末)	圏域	実施状況 (令和6年度末)	目標 (令和8年度末)	圏域	実施状況 (令和6年度末)		
忠岡町	1		1	1		3	町内において、重症心身障害児の受け入れ事業所はないが、保護者の希望に応じて、必要時には他市町村の事業所において利用確保に努める。	引き続き、左記の取り組みを推進する。

※1「入所者の削減数」の【削減数】の値は、令和4年度末時点の入所者数と令和6年度末の入所者数を比較して算出。

■医療的ケア児支援センターの設置、医療的ケア児等支援のための関係機関の協議の場の設置及びコーディネーターの設置

市町村名	数値目標および実施状況											状況分析 (課題・評価できることなど)	令和7年度における取組等 (課題を解決するための取組等)
	医療的ケア児支援のための 関係機関の協議の場			医療的ケア児等に関するコーディネーター(人)									
	目標 (令和8年度末)	圏域	実施状況 (令和6年度末)	目標 (令和8年度)	うち 福祉関係	うち 医療関係	圏域	実施状況 (令和6年度)	うち 福祉関係	うち 医療関係	達成率(%) (令和6年度)		
忠岡町	有	☆	有	2	1	1	高石市・泉大津市	1	1	0	50.0	障がい児福祉所管課の職員が、令和6年度に開催された医療的ケア児等養成研修を受講し、障がい児社関係のコーディネーターとして1名配置されている。	左記のとおり、所管課での配置を継続したうえで、今後、児童発達支援センター機能の設置とともに外部機関における配置についても検討を進めている。

※1「入所者の削減数」の【削減数】の値は、令和4年度末時点の入所者数と令和6年度末の入所者数を比較して算出。